

飯島賢二の『恐縮ですが・・・一言コラム』

第20回 「本気と必死」

「本気と必死」...2004年、IKGのメインテーマである。

今まで自分は、どのくらい「本気」だったか？ いつ、何に対して、どれだけ「本気」で対処してきたか、本気で自分自身を変えようとしたか、この会社を、本気で変革しようと努力したか。本気ならば、必ず「必死」になったはず、必死になった自分を、人に見せ付けたことがあったか...？

長期不況にあえぐ中小企業、こんな枕詞に慣れすぎではないか？ それを脱却させるため、自分は一体何をしてきたのか、どれだけ必死だったのか、精神的にも、肉体的にも「平和ボケ」になりすぎたようだ。「平和」はいい、が「平和ボケ」は良くない、そんな、当たり前の論理が分からなくなってしまった。

変革だ、チャレンジだ...。でも結局、何ら変わらないほうがいい、今までどおり慣れているやり方が、つまり、そのほうが「平和」だから、自分にとっては安心だ...。こんな退廃的日本人の典型に、ひょっとしたら、いつの間にか、自分自身もなりきってしまった。

変化することは、不安が伴う。新たな責任も発生する。すごく億劫（おっくう）で勇気がある。変革を実践するには、時代を見極める的確な判断力がなければだめだ。驕りのない真摯な姿勢と強靱な精神力、そして強力なリーダーシップが不可欠であろう。やっぱり生半可なパワーではできるはずがない。

口ではいつも「変化」だ、「チャレンジ」だといっている小物経営者、言っていることとやっていることが全く違う偽善者ボスたち、世の中自分中心に回っていると思ひ込んで、哀れな発展途上お偉い様、何とこんな類の輩（やから）が多いのか。「人のふり見て我ふり直せ」の通り、自分もあんな人種になってしまうのか...

自分だけが立派だなんて、とんでもない、実は何とかしたくて困っている。

だから2004年は毎日、自問自答を繰り返そうと思っている。「本気と必死」で正面からチャレンジしていきたい。何としてもいい企業にするため、全従業員が、IKGにいてよかったと自慢してくれるまで、逃げないでチャレンジを繰り返す。それが私に課せられた使命であり、体力の限り「本気と必死」で挑んでいく...2004年は、こんな年にしていきたい。

あえてこの、ホームページで誓いを披露し、私の「本気」の証（あかし）としたい。